



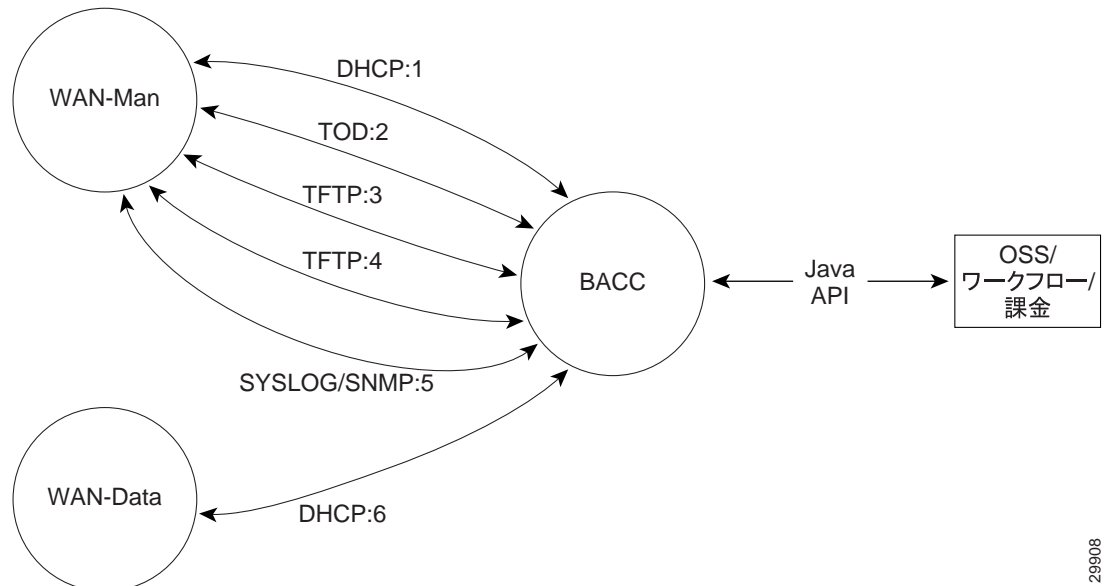
CableHome の設定

この章では、適切な CableHome 配備を実現するために必要となる作業について説明します。CableHome テクノロジーには、セキュア (SNMP) とノンセキュア (DHCP) の 2 つのバージョンがあります。この章では、主にノンセキュアなバージョンについて取り上げます。

ノンセキュア CableHome プロビジョニングのフロー

ノンセキュア CableHome プロビジョニングのフローでどのステップが失敗したかを特定して、それから他の詳細事項を診断するようにすると、非常に便利です。重要なプロビジョニングフローの要約を図 6-1 に示し、それらのフローについて以降の手順で説明します。

図 6-1 ノンセキュア CableHome のフロー



129908

1. DHCP:1 : WAN-Man が、自身の IP リースをこのステップで取得します。この IP リースでは、ポータル サービスが DHCP (ノンセキュア) モードでプロビジョニングされること、TFTP サーバ、および設定ファイルも指定されます。
2. TOD:2 : ポータル サービスが、MSO のネットワークにある時刻サーバとのタイム同期を実行します。
3. TFTP:3 : ポータル サービスが、ステップ 1 の説明と似た方法で設定ファイルを取得します。
4. TFTP:4 : ステップ 3 で取得した設定ファイルにファイアウォールの情報が含まれている場合、ポータル サービスはファイアウォール設定ファイルも取得します。
5. SYSLOG/SNMP:5 : 設定が正常に終了した後に実行されます。ポータル サービスが SYSLOG メッセージまたは SNMP PDU を送信して、正常に設定されたことを BACC に通知します。
6. DHCP:6 : ステップ 3 で取得したポータル サービス設定ファイルに、WAN-Data の IP アドレス数を 1 またはそれ以上に設定する MIB 設定が含まれている場合、ポータル サービス WAN-Data は要求された数の IP アドレスを取得します。

CableHome の設定

この項では、Network Registrar および CMTS を設定する方法について説明します。

Network Registrar の設定

-
- ステップ 1** プロビジョニングされる WAN-Man とプロビジョニングされない WAN-Man の選択タグを作成し、プロビジョニングされる WAN-Data の選択タグも作成します。
- ステップ 2** ケーブル モデムについて、プロビジョニングされないクライアント クラスとプロビジョニングされるクライアント クラス、およびスコープを『*Network Registrar User's Guide*』で指定されているとおりに設定します。
- ステップ 3** WAN-Man について、プロビジョニングされないクライアント クラスとプロビジョニングされるクライアント クラス、およびスコープを設定します。
- ステップ 4** WAN-Data について、プロビジョニングされるクライアント クラス、およびスコープを設定します。
- ステップ 5** すべてのサブネットに到達するためのルートを追加します。
-

RDU の設定

RDU に対する CableHome サポートを設定するには、次の設定を行います。

- [CableHome WAN-Man の設定 \(P.6-3\)](#)
- [CableHome WAN-Data の設定 \(P.6-4\)](#)

CableHome WAN-Man の設定

-
- ステップ 1** プロビジョニングされる WAN-Man の DHCPCriteria を作成します。作成するには、クライアント クラスを Network Registrar CableHome WAN-Man で設定されているクライアント クラス名に設定します。
- ステップ 2** プロビジョニングされる WAN-Man のサービス クラスを作成します。
- `/cos/chWanMan/file` を、このサービス クラス用の適切な CableHome 設定ファイルに設定します。
 - `/chWanMan/firewall/file` を、目的のファイアウォール設定ファイルに設定します。
-

CableHome WAN-Data の設定

ポータルサービスで WAN-Data の IP アドレスを取得するときは、そのたびに次の WAN-Data パラメータを設定します。

ステップ 1 WAN-Data の DHCPCriteria を作成します。

ステップ 2 WAN-Data の ClassOfService を作成します。

Device Provisioning Engine の設定

CableHome テクノロジーをサポートするように DPE を設定するには、次の手順に従います。

ステップ 1 CableHome デバイス プロビジョニング WAN-Man 設定ファイルを開いて、DHCP オプション 60 が CableHome1.0 または CableHome1.1 のいずれかに設定されていることを確認します。一部の製造業者は、独自の MIB オブジェクトを使用して、単純なケーブル モデム、CableHome 以外のルータ、または CableHome ルータとして動作するようにデバイスに指示していることがあります。デバイスの DHCP パケットの DHCP オプション 60 に CableHome1.0 または CableHome1.1 が含まれていない場合、デバイスは必ずコンピュータとして表示されます。

ステップ 2 ポータルサービスで WAN-Data の IP アドレスを取得する場合は、次の手順に従います。

- WAN-Man 設定ファイルに含まれている TLV 28 で、cabhCdpWanDataIpAddrCount が 0 を超える値に設定されていることを確認します。
- ケーブル モデム設定ファイルで、CPE の最大数を、WAN-Data の IP アドレス数を収容できる数に設定します。

ステップ 3 CableHome デバイスのブート時にセルフプロビジョニングをイネーブルにするには、次の手順に従います。

- unprov-wan-man.cfg ポータル サービス設定ファイルで、ポータル サービスをパススルー モードで設定します。
- ケーブル モデム設定ファイルで、CPE の最大数を 2 以上に設定して、WAN-Man とコンピュータをプロビジョニングできるようにします。このコンピュータは、サインアップ Web ページに直接アクセスしてセルフプロビジョニングできます。

ステップ 4 CableHome 設定ファイルを閉じて保存します。
